



特定外来生物

グリーンアノール

を知っていますか？



とくていがいらいせいぶつ ししく うんぱん  
 特定外来生物として飼育や運搬が禁じられて  
 いるトカゲ、「グリーンアノール」は、国内で  
 ざまみじま おがさわらしょとう しんにゅう  
 は沖縄本島と座間味島、小笠原諸島で侵入が  
 確認されています。小笠原では、希少種を含  
 きしょうしゅ  
 むさまざまな昆虫がグリーンアノールに食べ  
 こんちゅう  
 られ、生態系に大きな悪影響を与えているこ  
 せいたいけい あくえいきょう  
 とがわかっています。



学名： *Anolis carolinensis*  
 和名：グリーンアノール 英名：Carolina Anole  
 別名：アノールトカゲ・ミドリアノール・アメリカカメレオン  
 原産地：アメリカ合衆国南東部、キューバ、メキシコ、西インド諸島  
 沖縄への導入：ペットおよびペットの餌として輸入されたものが  
 野生化したと思われる  
 1990年代初頭に首里などで定着したと考えられる



グリーンアノールの最大の特徴  
 ピンク色のデュラップ（のど袋）



目の回りがアイシャドー  
 めったように青い



体全体の色を茶褐色に  
 変化させることができる

## ○ 沖縄本島で見られる特定外来生物の例

### ・フィリマングース

1910年、ネズミ・ハブの駆除のため沖縄本島南部に持ちこまれましたが、やんばる地域  
 しんにゅう  
 まで侵入し、オキナワトゲネズミなどの在来種に大きな影響を与えています。環境省・沖縄  
 ゑんげいしょう  
 県・在沖米軍で連携して防除に取り組んでいる結果、ヤンバルクイナの分布が拡大するなど  
 れんけい ぼうちょう けっか ぶんぶん かくだい  
 の成果が見られているものの、長い年月と多大な労力がかかります。  
 せいか ろうりょく



### ・シロアゴガエル

熱帯アジアに広く分布するアオガエル科のカエルの1種で、樹上などに泡のような卵塊（泡  
 ねったい  
 巣）を作ります。1964年に沖縄本島中部で初めて定着が確認され、それ以降、建築資材等  
 じゆじょう あわ らんかい  
 まぎ ぶんざん  
 に紛れて分散し、石垣島や宮古島など多くの島々に広がりつつあります。



## バーバートカゲ ぜつめつきぐにるい 絶滅危惧II類

分布：おきなわほんとう しゅうへん あまみ 沖縄本島とその周辺（その他奄美大島など）

全長：やく 約 18cm

特徴：

きれいな青色のしっぽ。成体になるにつれ青色はうすくなるが、メスはきれいな色を残したままであることもある。ひょうこう じょうりょくこうようじゃりん 標高が高めの常緑広葉樹林で見られる。外来生物であるマングースやノネコに食べられ、数を減らしている。



## オキナワトカゲ ぜつめつきぐにるい 絶滅危惧II類

分布：おきなわほんとう しゅうへん 沖縄本島とその周辺

全長：やく 約 15~19cm

特徴：

バーバートカゲに近い親せき。海岸の林や畑のまわりなど、低地でみかける。島に持ちこまれたマングースやイタチに食べられ、沖縄本島中南部、ざまみじま 座間味島などでは数を大きく減らしている。

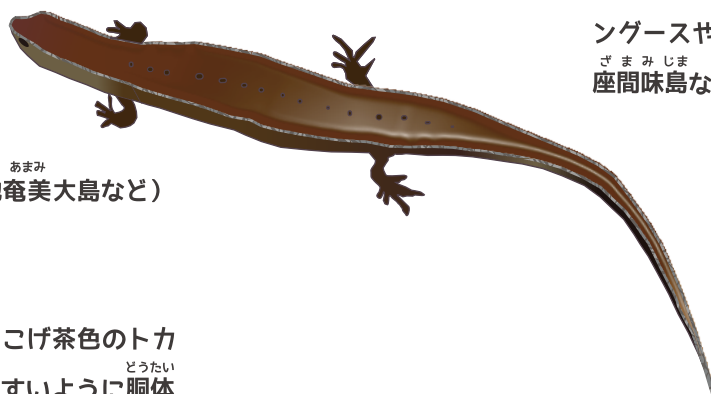
## ヘリグロヒメトカゲ

分布：おきなわほんとう しゅうへん あまみ 沖縄本島とその周辺（その他奄美大島など）

全長：やく 約 12cm

特徴：

体の横がわに黒っぽい色の線があるこげ茶色のトカゲ。枯れ葉や森の土の中をもぐりやすいように胴体が長く、足は短い。



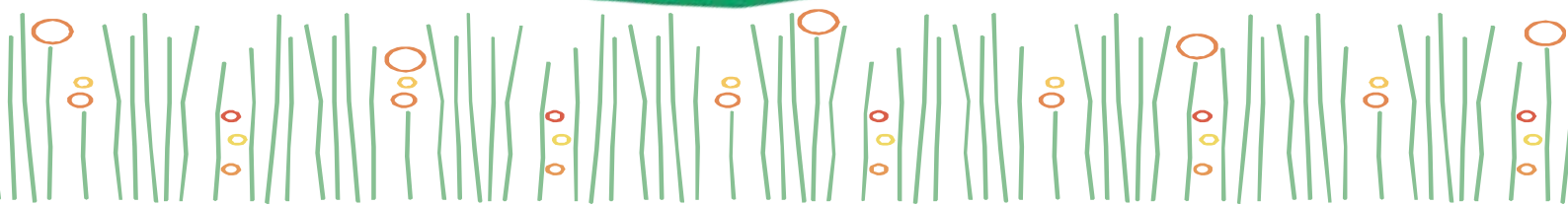
## アオカナヘビ

分布：おきなわほんとう しゅうへん あまみ 沖縄本島とその周辺（その他奄美大島など）

全長：やく 約 25cm

特徴：

鼻先が長く、オスは茶色っぽい緑色で、体の横がわはこげ茶色である。メスは全身緑色で、オスのようなこげ茶色の部分はない。オス、メスともに体の横に白い線があるものが多い。



# 沖縄本島でみられるトカゲ・ヤモリ類



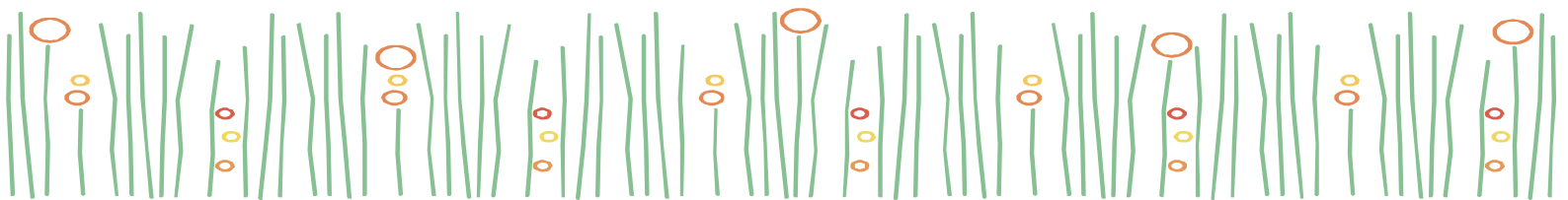
## オキナワキノボリトカゲ ぜつめつさくにいるい 絶滅危惧II類

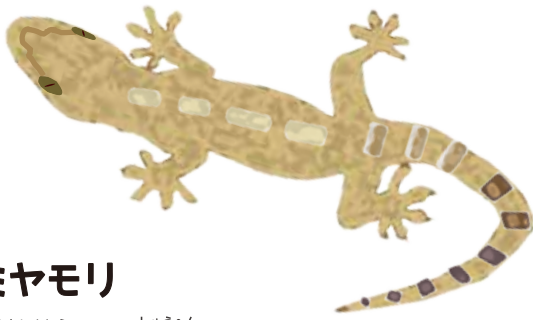
分布：おきなわほんとう 沖縄本島としゅうへん その周辺（あまみ その他奄美大島など）  
全長：やく 約 20~25cm  
特徴：  
頭やおなか、せなかにでこぼこなウロコがある。手足やしっぽは細長い。せなかのウロコは、のこぎりの歯みたいな形になっている。ペットとしてたくさん捕られたりして数を減らしている。



## グリーンアノール とくていがいらいせいぶつ 特定外来生物

分布：なはし 那覇市・とみくすくし 豊見城市を中心としたおきなわほんとう 沖縄本島南部、ざまみしま 座間味島に  
じんいてき 人為的に分布（おがさわらしょうとう その他小笠原諸島）  
全長：やく 約 6~22cm  
特徴：  
おもに木の上などでくらすしている。ほかには、畑や庭木などでみられる。頭は大きく角ばっていて、てっぺんはひらたい。しっぽは体の長さの3分の2をしめる。体の色はあざやかな緑色が多いが、茶色にかわることもある。目のまわりがアイシャドーをぬったように青い。また、オスはピンク色ののど袋をもっている。





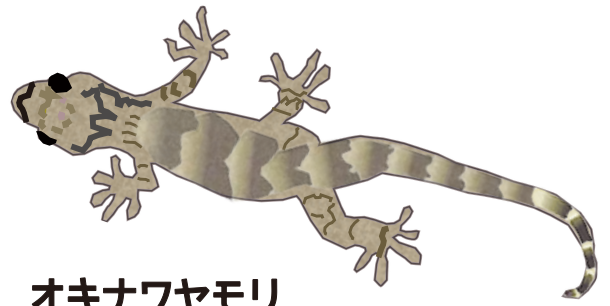
## ミナミヤモリ

分布：<sup>おきなわほんとう</sup>沖縄本島と<sup>しゅうへん</sup>その周辺（<sup>おきなわほんとう</sup>その他九州南部など）

全長：<sup>やく</sup>約 12cm

特徴：

平地の<sup>ぼうふうりん</sup>防風林や古い<sup>たてもの</sup>建物などによくいる。<sup>おきなわほんとう</sup>沖縄本島でふつうにみられるヤモリの一つ。黒い点が<sup>ふきそく</sup>不規則にある。



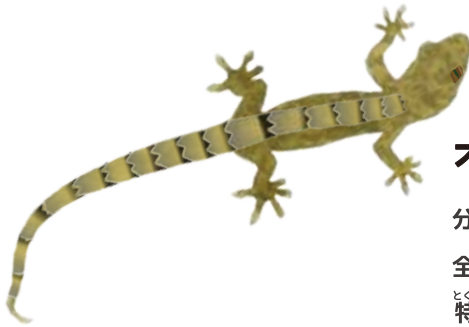
## オキナワヤモリ

分布：<sup>おきなわほんとう</sup>沖縄本島と<sup>しゅうへん</sup>その周辺

全長：<sup>やく</sup>約 10cm 以上

特徴：

オキナワヤモリは、まだ<sup>せうたう</sup>世界共通の名前（<sup>がくめい</sup>学名）のないヤモリ。ミナミヤモリに近い<sup>しゅるい</sup>種類。やんばるでは、山や森林の木で夜に活動している。



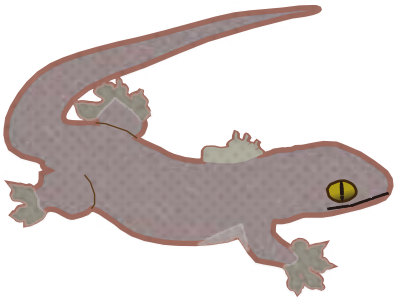
## オガサワラヤモリ

分布：<sup>おきなわほんとう</sup>沖縄本島と<sup>しゅうへん</sup>その周辺（<sup>せんかくれつとう</sup>尖閣列島をのぞく）

全長：<sup>やく</sup>約 8cm

特徴：

体の色は明るめで、黒い点が<sup>ふきそく</sup>不規則にある。<sup>みんか</sup>民家や<sup>がいうじゅ</sup>街路樹に多いが、<sup>だいとうしよとう</sup>大東諸島では林にもいる。



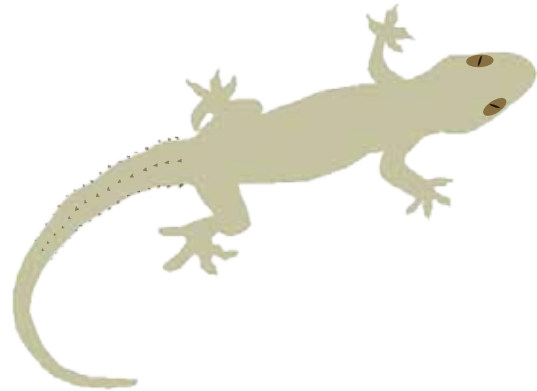
## オンナダケヤモリ

分布：<sup>おきなわほんとう</sup>沖縄本島と<sup>しゅうへん</sup>その周辺（<sup>あまみ</sup>その他奄美大島など）

全長：<sup>やく</sup>約 11cm

特徴：

<sup>せいたい</sup>成体になるにつれ、<sup>もよう</sup>はんてん模様は消えていき、<sup>さしいよ</sup>しっぽが太くなっていく。名前（<sup>あまみ</sup>和名）は国内で最初に見つかった<sup>おんなだけ</sup>沖縄県恩納岳に由来し、「女だけ」ではない。



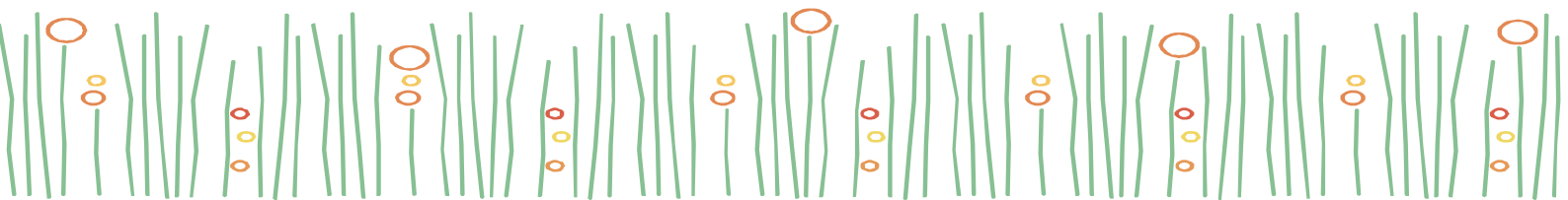
## ホオグロヤモリ

分布：<sup>おきなわほんとう</sup>沖縄本島と<sup>しゅうへん</sup>その周辺（<sup>あまみ</sup>その他奄美大島、<sup>さきしましよとう</sup>先島諸島など）

全長：<sup>やく</sup>約 11cm

特徴：

手足のウラー面にウロコのようなもの（<sup>しかばん</sup>指下板とよばれる）がおおっている。一度も切れたことがないしっぽにはトゲがリング状にならんでいる。また、「キョツ、キョツ、キョツ」という鳴き声で家の中などでよく鳴く。休んでいるときは<sup>ふきそく</sup>不規則な<sup>たてしま</sup>縦縞の<sup>もよう</sup>模様が出る。



# 外来生物って？

もともとすんでいた生きものや、渡り鳥のように自分から飛んできたりする生きものと違って、海外からペットとして持ち込まれたものが逃げたり、海外からの貨物にまぎれて入ってきたりした生きものたち（人間活動によって他の地域から持ちこまれた生きものたち）のことを「外来生物」と言います。

このうち、生きものどうしのつながりに悪い影響をあたえたり、人に害があったりする生きものは「特定外来生物」に指定され、飼ったり、持ち運んだり、ほかの場所に放したりすることが禁じられています。たとえば、アフリカが原産とされるボタンウキクサという水草は、観賞用としてホームセンターなどで販売されたものが捨てられるなどし、水面をおおいつくすほど広がってしまった場所もあります。水中に光が届かなくなるため、水温や水質の低下をまねき、もともといた川の生きものが生きていけなくなったりします。



庭先で違法に栽培されているボタンウキクサ

国内の生きものも、別の地域に人が移動させることで問題がおきます。八重山諸島だけにすむサキシマハブはもともと沖縄にいるハブと混じってしまうだけでなく、ハブよりかなり高い割合で人をおかむ被害が生じています。また、本来毒ヘビのいない宮古島でも近年見つかって、人がかまれる危険が出ています。

生きものはそれだけ単独で生きているわけではなく、生きものどうしのつながりや、暮らしている環境の中で、長い時間をかけて関係を築き、微妙なバランスを保っています。どの外来生物も、もともと暮らしていた地域では、ごくふつうの生きものであることを忘れてはなりません。外来生物法では「入れない」「捨てない」「拡げない」を予防三原則としていますが、身勝手な行為がときに取り返しのできない大きな問題を引き起こすことがあるのです。

## わたしたちにできること

- ・生きものは、もともとすんでいた地域から持ち出したりしないようにしましょう。同じ種であっても、すむ場所が違わず少しづつ違いが見られることがあります。これは長い年月をかけて築かれてきた「生きものたちの歴史」といえます。
- ・特定外来生物を飼ったり育てている人を見かけた場合は、環境省をはじめとする行政機関にお知らせください。また、もし知らずに飼ったり育てていた場合はご相談ください。けっして、どこかに捨てたりしないでください。
- ・通学・通勤や散歩しているときに会える生きものについて、どれだけ名前をあげられますか。身近な生きものたちをよく知ることが、外来生物の発見と対策につながります。いつもと違う生きものを見かけたら、図書館やインターネットなどを使って調べてみましょう。
- ・草刈りなど、地域や学校で行われる活動のひとつに、外来生物防除をとりいれてみましょう。その場合、やり方によってはかえって外来生物を増やしたりしてしまうこともあります。防除のやり方など、環境省をはじめとする行政機関にご相談ください。

○ 外来生物についてさらに知りたい人のために

・外来生物法（環境省）

<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>

・侵入生物データベース（独）国立環境研究所

<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>

・那覇自然環境事務所管内の外来生物

<http://kyushu.env.go.jp/naha/wildlife/index.html#gairai>

発行・著作 /



環境省 九州地方環境事務所  
那覇自然環境事務所

〒900-0022 沖縄県那覇市樋川1丁目15番15号

那覇第一地方合同庁舎1階

Tel. 098-858-5824 Fax. 098-858-5825

製作 / (株)アーバントラフィックエンジニアリング

イラスト / 山本由夏 写真提供 / 中田勝士

協力 / 戸田 守 (琉球大学熱帯生物圏研究センター)

小原祐二 (おきなわカエル商会 <http://www.okinawa-kaeru.net/>)

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

